

トルグートモンゴル人と家畜の関係

—新疆ウイグル自治区タルバガタイ地域を事例に—

陶波茹

キーワード：トルグートモンゴル人、新疆、家畜、牧畜民、現地フィールド調査

要 旨

本研究では、新疆ウイグル自治区タルバガタイ地域に居住するトルグートモンゴル人を対象とし、家畜を媒介として展開される人間と環境の長期的・動的な相互関係を、「文化人類学的視点」及び「牧畜連続体」の理論的枠組みから解明した。特に、自然環境・社会経済的変動に伴う家畜構成と飼育実践の適応、国家政策と市場経済化が伝統的牧畜システムに与える影響、そして現代社会における「牧畜連続体」の再編過程に焦点を当てた。上記の目的を達成するため、本研究では、文献調査に加え、2025年8月から9月にかけて現地フィールド調査及び聞き取り調査を実施した。調査対象は、伝統的知識を体現する高齢者から新たな技術を取り入れる若年層まで、多様なライフステージと居住形態の牧畜民とした。

その結果、家畜を媒介としたトルグートモンゴル人と環境の関係は、固定的なものではなく、気候変動、家族のライフサイクル、文化的価値観に応じて再調整される「動的適応システム」であることが確認された。伝統的な「五畜」の飼育理念は、生態的レジリエンスと自給自足の可能性としての価値を保ち続けている。特に高齢層は、家畜種間の機能的補完性とリスク分散を重視し、家畜群を一つの「生態系」として管理していた。しかし、実際の家畜構成は実用性と効率性の論理により大きく影響を受けている。また、国家政策と市場経済化は、伝統的牧畜システムに対して、制約と機会の両面の影響を及ぼしていることも明らかにされた。特に、「遊牧民定居プロジェクト」は、教育・医療アクセスの改善という恩恵をもたらすと同時に、移動範囲の縮小や定住化を促し、伝統的な季節移動パターンを変容させた。一方で、市場経済の浸透は家畜の価値評価を「換金性」に収斂させ、生物的多様性と生態的レジリエンスを損なう可能性も内在している。なお、新疆トルグートモンゴル人の「牧畜連続体」は、劇的に再編されている。具体的に言えば、昔のウイグル農耕民との物的交換やトルグート社会内部の非貨幣的互助に支えられた共生ネットワークは、貨幣経済の普及や核家族化により希薄化・縮小した。この空白を埋めるように、国家から「定居」政策によるインフラ整備や各種補助金は、新たな制度的・財政的セーフティネットを形成し、牧畜を国家的な政策管理と支援の対象へと変質させた。同時に、情報通信技術は地理的制約を超えた新たな連続体を生み出している。スマートフォンを介した消費者との直接取引は、経済的連環を遠隔地に拡張し、牧畜民を能動的な市場主体へと変えつつある。また、SNSは自らの生活や製品の物語を発信し、文化的価値を直接伝えるプラットフォームとしての可能性を秘めている。現代の「牧畜連続体」は、縮小するローカルなネットワーク、拡大する国家との制度的ネットワーク、そして無限に広がりうる情報技術を介した経済的・文化的ネットワークといった三層の要素が絡み合った複合体へと進化している。